

奄美大島の外来植物防除優先度リスト

環境省奄美群島国立公園管理事務所作成

内容

奄美大島の外来植物防除優先度リスト	1
A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類	1
オオフサモ	1
ボタンウキクサ	3
ツルヒヨドリ	6
オオキンケイギク	8
ミズヒマワリ	10
ナガエツルノゲイトウ	13
センダンキササゲ	15
アカザカズラ	18
コケセンボンギクモドキ	19
B) 場所を限定して局所的な防除を進める種類	20
セイヨウミズユキノシタ	20
オウゴンカズラ	21
コゴメミズ	23
トクサバモクマオウ	24
アメリカネナシカズラ	25
アカギ	27
C) 普及啓発等を通じて新たな拡散を防止する種類	28
ギンネム	28
シチヘンゲ	29
ホテイアオイ	30
アメリカハマグルマ	32
セイタカアワダチソウ	33
外来ユリ(タカサゴユリ、シンテッポウユリ).....	35
ムラサキカッコウアザミ	36
メリケントキンソウ	38
ベゴニア	39
D) 情報収集に努める種類	41
ハイクサネム	41
デリス	42

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

1

1. オオフサモ

アリノトウグサ科 *Myriophyllum aquaticum*

原産地：南アメリカ

外来生物法：特定外来生物

生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種

特徴

水槽用の水草としてかつて一般に流通していた。河川湖沼、水田、水路などで繁茂する。成長が早く、自身の茎を絡ませながら、マット状に生育する。

葉：鳥の羽のような葉が茎に 5、6 枚ずつ車輪状につく。色はライトグリーン。

花：暖かい時期に葉の付け根に白いほこりのような花を咲かせる。

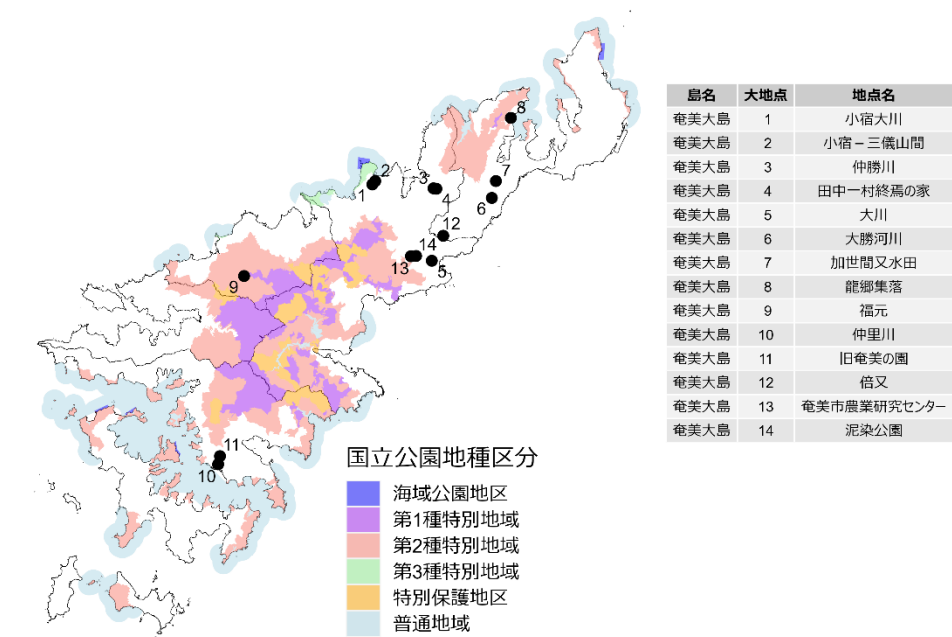
繁殖：雌株と雄株がある雌雄異株で、日本には雌株しかないとされ、種子繁殖は確認されていない。栄養繁殖が旺盛で、千切れた茎の断片から根を出して再生する。



影響：水路や湖沼で大繁茂し、在来植物と競合する他、水流を妨げるなどの影響が報告されている。また奄美大島でも水田に侵入し、作物と競合してしまうことで農業被害が起きている。

侵入状況 : 令和 6 年 1 月現在、奄美大島内の河川、水田など 14 カ所で生育が確認されている。

オオフサモ生育地点(奄美大島)
2024年1月 17日現在



対策状況 : 4 カ所で継続的な防除作業を実施。河川内では大規模な生育が見られ、重機と手作業を組み合わせた丁寧な駆除作業が求められる。

防除のコツ : 種子繁殖しないため防除の時期は問わない。土中に残存した根からも再生育するため、丁寧な抜き取り作業が求められる。約 1 ヶ月で取り残した根からの再生育が視認しやすくなるため、1 ヶ月間隔での定期的な抜き取り作業が望ましい。

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

2

2. ボタンウキクサ

サトイモ科 *Pistia stratiotes*

原産地：アフリカと考えられる

外来生物法：特定外来生物

生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種

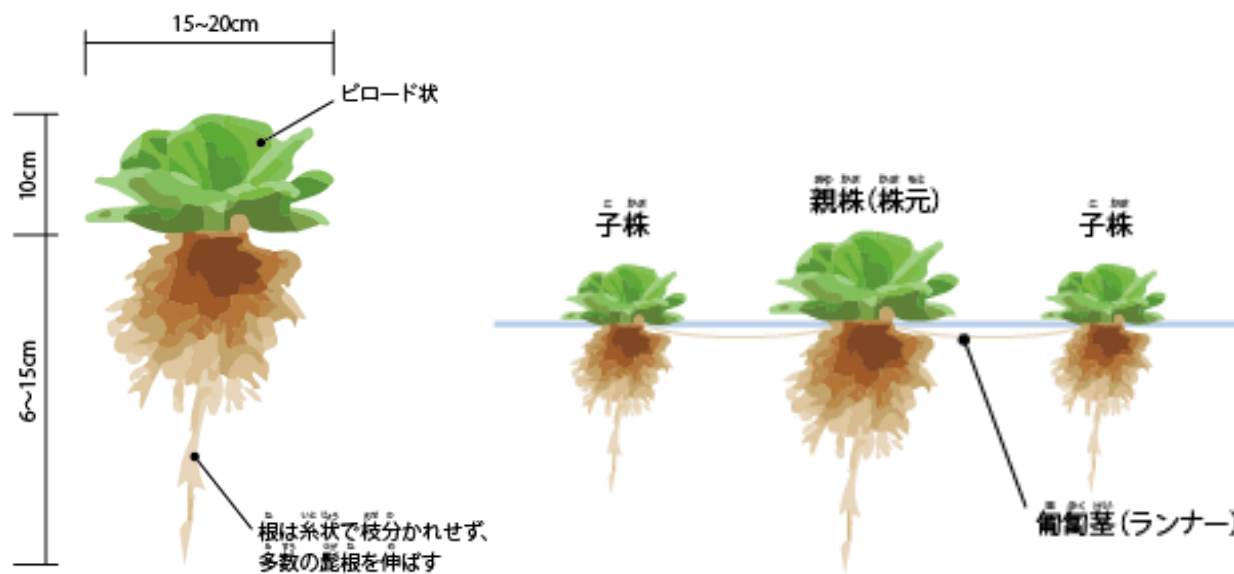
特徴

水面に浮くレタスのような植物。成長が早く、繁茂すると水面を覆い尽くしてしまう。かつて水槽用の水草として流通していた。

葉 : 先の丸い横長楕円形の葉をロゼット状につける(キャベツやレタスの様)。葉の色は白緑色で表面にビロード状の柔らかい毛が生え、水をはじく。

花 : 葉の根元に小さな花を咲かせる。奄美ではほぼ周年開花が確認できる。

繁殖 : 親株から横に匍匐茎を伸ばし、その先に子株をつける栄養繁殖が旺盛。種子繁殖も行い、種子は風、水、動物、人間活動によって拡散される。

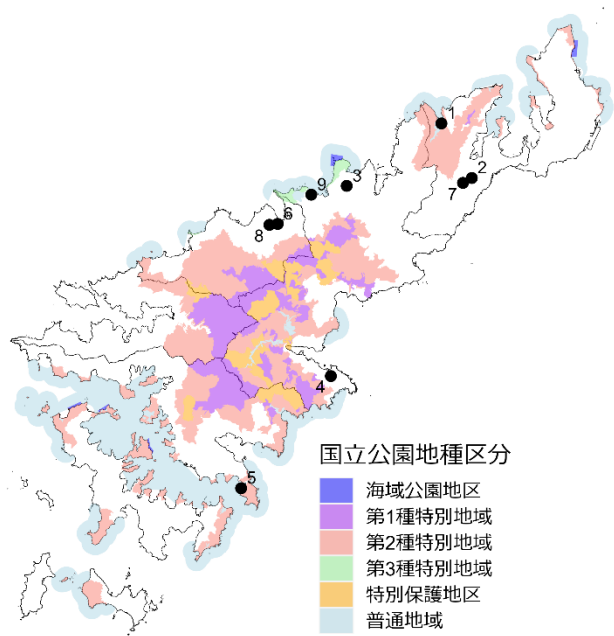




影響 : 水面を覆い尽くすように繁茂することから、水中の酸素や光が不足して、他の植物が生育できなくなるほか、他の水生生物に影響を及ぼすことが知られている。また水田に侵入し、農業被害を引き起こす事例も報告されている。

侵入状況 : 令和 6 年 1 月現在、奄美大島内では 9 カ所で生育が確認されている。また本種はかつて一般に広く流通していたため、特定外来生物に指定されたことを知らずに庭等で栽培し続けている人がいるかもしれない。普及啓発等により情報の収集が求められる。

ボタンウキクサ生育地点(奄美大島)
2024年1月 17日現在



島名	大地点	地点名
奄美大島	1	幾里水田
奄美大島	2	加世間又水田
奄美大島	3	小宿・里間
奄美大島	4	市
奄美大島	5	ヤドリ浜
奄美大島	6	津名久
奄美大島	7	大勝
奄美大島	8	大和川
奄美大島	9	根瀬部

対策状況 : 6カ所で継続的な防除作業を実施中。他2カ所で土地利用の変化による消失を確認。モニタリングを継続している。

防除のコツ : 周年開花が見られるため、防除の時期は問わない。成長速度が速いため、丁寧な除去作業が求められる。取り残した株や土中からの新たな発芽もあるため、1ヶ月間隔での定期的な駆除作業が望ましい。

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

3

ツルヒヨドリ

キク科 *Mikania micrantha*

原産地：熱帯アメリカ

外来生物法：特定外来生物

生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種

IUCN 世界の侵略的外来種ワースト 100

特徴

多年生のつる植物。周囲の植物に絡みつきながら厚い藪を作り、被覆するように成長する。旺盛な種子繁殖に加え、千切れた断片からでも増える。つるは 1 日で 10cm も伸張すると言われ、英語で mile-a-minute weed (1 分で 1 マイル広がる雑草)の異名を持つ。

葉：葉の長さは 4～13cm、幅 5～10cm。表面は少し光沢があり、毛は生えない。1 カ所から 2 枚の葉が出る対生。基本的にはハート型だが、少し伸びたり、角張ったり形は様々。葉の縁はギザギザしている(鋸歯)。

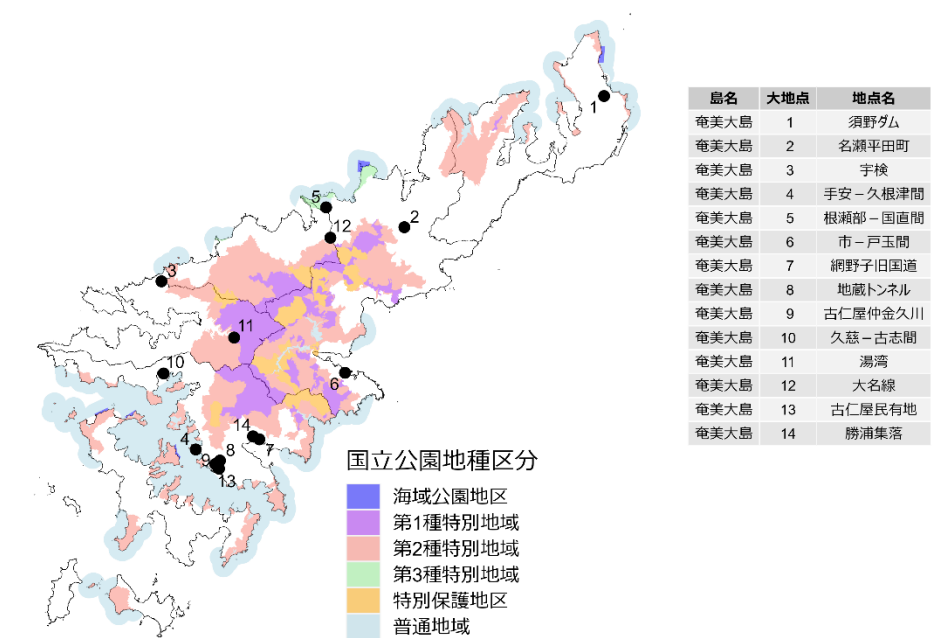
花：11～12 月にかけて小さな白い花が集まった集合花を咲かせる。一つの花の大きさは 3mm ほどで、1 月頃には綿毛のついた軽い種を大量につける。



影響：他の植物を覆いながら生育するため、覆い尽くした下の植物に日光が届かなくなり枯らしてしまうなどの影響がある。このようにして在来植生と競合するだけでなく、果樹などの農作物を被覆することによる農業被害も報告されている。

侵入状況 : 令和 6 年 1 月現在、奄美大島内では道路沿い法面、河川内等 14 カ所の生育が確認されている。

ツルヒヨドリ生育地点(奄美大島)
2024年1月 17日現在



対策状況 : 11 カ所で継続的な防除作業を実施。手作業による抜き取り、防草シートの設置、除草剤による防除が行われている。道路沿い法面などの急傾斜地、高所、落石防止金網の裏などでの防除に課題が残る。

防除のコツ : 11～12 月に花を咲かせ、種子をつけるため、この時期以前の駆除作業が望ましい。茎の千切れた断片からも再生育するため、つるの根元をたどるように丁寧に駆除していく必要がある。約 1、2 ヶ月で取り残した株からの再生育が視認しやすくなるため、1、2 ヶ月間隔での定期的な駆除作業が望ましい。

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

4

オオキンケイギク

キク科 *Coreopsis lanceolata*

原産地：北アメリカ

外来生物法：特定外来生物

生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種

特徴

日当たりの良い草原、土手などに生育するキク科の多年生草本。5～6月頃に黄色の大きな花を咲かせる。園芸植物としてかつては広く植えられており、野外への逸出も散見される。

葉：根元から生える葉ははじめ細長いへら型で、大きくなるにつれ、3～5枚の小葉に分裂する。茎から生える葉も同様の形で1カ所から対になって葉が出ることが多い。

花：5～6月頃に黄色い花を咲かせる。多くのキク科植物でみられるように小さな花が集まって出来る頭状花で、直径は5～7cm。

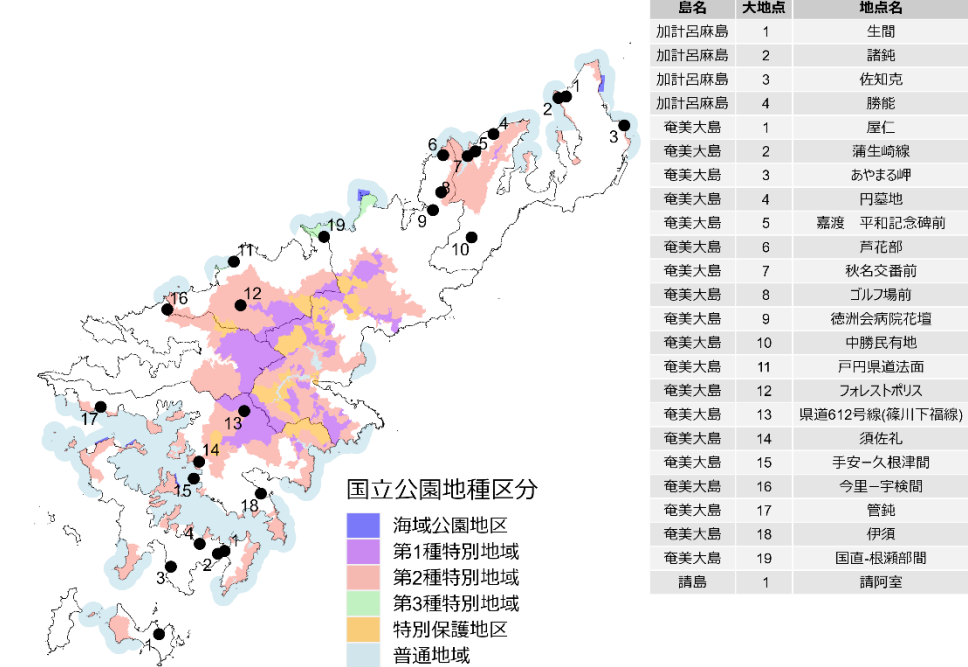
繁殖：種子繁殖により生育地を拡大する。種子には翼があり、風に飛ばされやすくなっている。



影響：日当たりの良い河原などで在来種と競合し、駆逐してしまう事例が国内で見られている。

侵入状況 : 令和6年1月現在、奄美大島で19カ所、加計呂麻島で4カ所、請島で1カ所の生育が確認されている。本種は園芸植物としてごく普通に流通していたことから、特定外来生物と知らずに栽培を続けている人がいる可能性もある。普及啓発を通じて情報の収集が求められる。

オオキンケイギク生育地点(奄美大島)
2024年1月17日現在



対策状況 : 22カ所で継続的な防除作業を実施。道路沿い法面などの急傾斜地、高所での駆除に課題が残る。

防除のコツ : 5～6月の花期以外はロゼット状の葉しか持たないため、発見が難しい。花期は黄色い花がよく目立つことから花が咲き、種子が出来るまでの時期に駆除を実施したい。根から丁寧に抜き取る必要がある。

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

5

ミズヒマワリ

キク科 *Gymnocoronis spilanthoides*

原産地：熱帯アメリカ

外来生物法：特定外来生物

生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種

特徴

抽水性の多年生草本。水槽用の水草としてかつて一般に流通していた。千切れた茎の断片から成長し、マット状の塊を作る。

葉：ヒマワリの葉によく似ることから、この名前に。同じ箇所から 2 枚の葉が対になって生える(対生)。葉の長さは 20cm 程度になる。

花：100～150 個の白く小さな小花を集まった直径 1cm ほどの頭状花をつける。

繁殖：千切れた茎の断片から成長する栄養繁殖が旺盛。図鑑によってはほとんど結実しないなどの表現があるが、国内の複数の侵入個体群で結実が確認されており、分布拡大における種子繁殖の可能性も指摘されている¹。



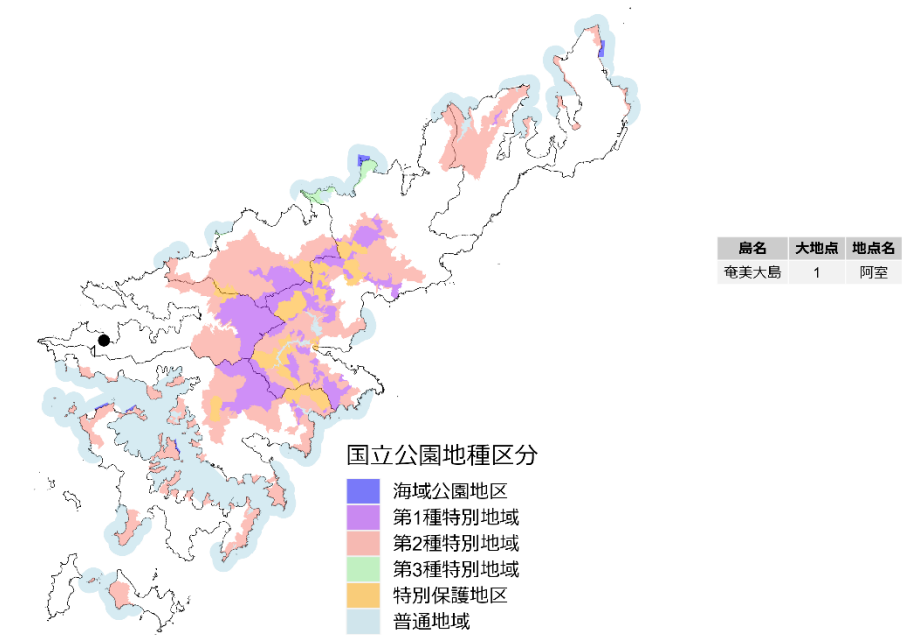
¹ 大道暢之、角野康郎(2005)『外来水生植物ミズヒマワリの種子形成とその発芽特性』,保全生態学研究 10, p113-118.



影響 : 水路や河川の水流を妨げるほか、在来植物、魚類の生息を脅かすと考えられる。また他の植物の生長を妨げる物質を分泌する（アレロパシー活性）。花にはアサギマダラなどの蝶類が多く集まるため、在来植物の受粉にも影響を与える恐れがある。

侵入状況 : 令和 6 年 1 月現在、奄美大島内では 1 カ所でのみ生育が確認されている。

ミズヒマワリ生育地点(奄美大島)
2024年1月 17日現在



対策状況 : 生育が確認されている地点では、根絶にむけた防除作業が実施されている。

防除のコツ : 暖かい時期は長い期間開花が見られることから、駆除の時期を気にする必要はあまりない。
駆除作業時に種子があれば、地面に落ちないように優先的に取り除く。千切れた茎の断片からも再生育するため、根から丁寧に掘り出すことが求められる。1、2ヶ月間隔で定期的な抜き取り作業を行うのが望ましい。

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

6

ナガエツルノゲイトウ

ヒユ科 *Alternanthera philoxeroides*

原産地：南アメリカ

外来生物法：特定外来生物

生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種

特徴

観賞用の水草として日本に持ち込まれた抽水性の多年草。河川湖沼、水田、水路などで繁茂する。中空の茎は水中でも浮き、自身の茎を絡ませながらマット状に生育する。

葉：葉に柄はないか、あっても非常に短い。長さは2.5cm～5cm、幅は0.7～2cmで同じ場所から2枚の葉が対になって生える(対生)。縁には目で見えないほどの細かいギザギザ(鋸歯)がある。

花：4～10月頃にかけて、小さな白い花が集まった花序をつける。この花序に1～4cmの柄があることから、ナガエ(長柄)ツルノゲイトウの名前に。

茎：長さは0.5～1m以上になる。中は空になっているが、水中に生えるか陸上に生えるかで太さ、硬さは大きく変化する。節ごとで折れやすい。

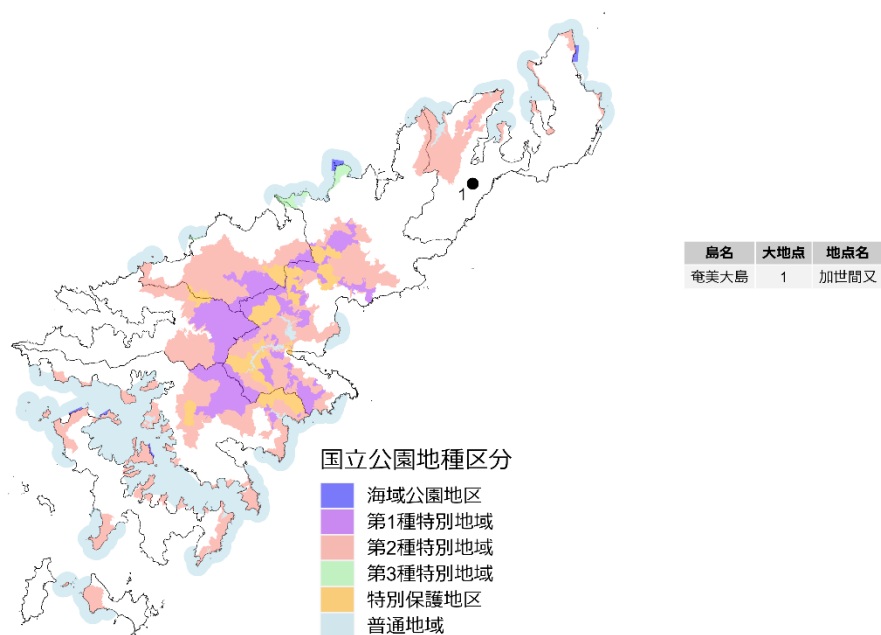
繁殖：日本で種子繁殖は確認されておらず、茎の断片からの栄養繁殖によって増えている。



影響：水路や湖沼で大繁茂し、在来植物と競合する他、水流を妨げるなどの影響が報告されている。また奄美大島、石垣島等でも水田に侵入し、作物と競合してしまうことで農業被害が起きている。

侵入状況 : 令和6年1月現在、奄美大島内では1カ所でのみ生育が確認されている。

ナガエツルノゲイトウ生育地点(奄美大島)
2024年1月17日現在



対策状況 : 未だ全体的な防除作業には至っていない。

防除のコツ : 種子繁殖していないと考えられるため防除の時期は問わないが、奄美では冬に嵩が大きく減っていることから冬に作業を行うのが効率的など考えられる。1、2ヶ月間隔での定期的な抜き取り作業が求められる。

リンク :

ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル 農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構
<https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/documents/nagaetsurunogeitoukunikujyomanual.pdf>

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

7

センダンキササゲ

ノウゼンカズラ科 *Radermachera sinica*

原産地：台湾、中国南部～東南アジア

特徴

日当たりの良い路傍などに生える成長の早い常緑高木。成長すると高さ 10m 以上になる。らせん状にねじれた果実を大量につけるのが、最大の特徴。奄美大島で急激に分布を拡大しており、注意が必要。

葉：和名にセンダンと入るとおり、センダンの葉を思わせるような葉。2 回奇数羽状複葉。長さ 20～70cm 程度になる。表面には光沢がある。

花：初夏、枝先に長さ 8～12cm のラッパの様なかたちの花をつける。花は白～黄白色。

繁殖：らせん状にねじれる特徴的な果実の中には小さな種が無数に入っている。種には翼があり、風や自動車等によって拡散している。挿し木でも簡単に増えるため、駆除する際は伐採した断片にも注意が必要。

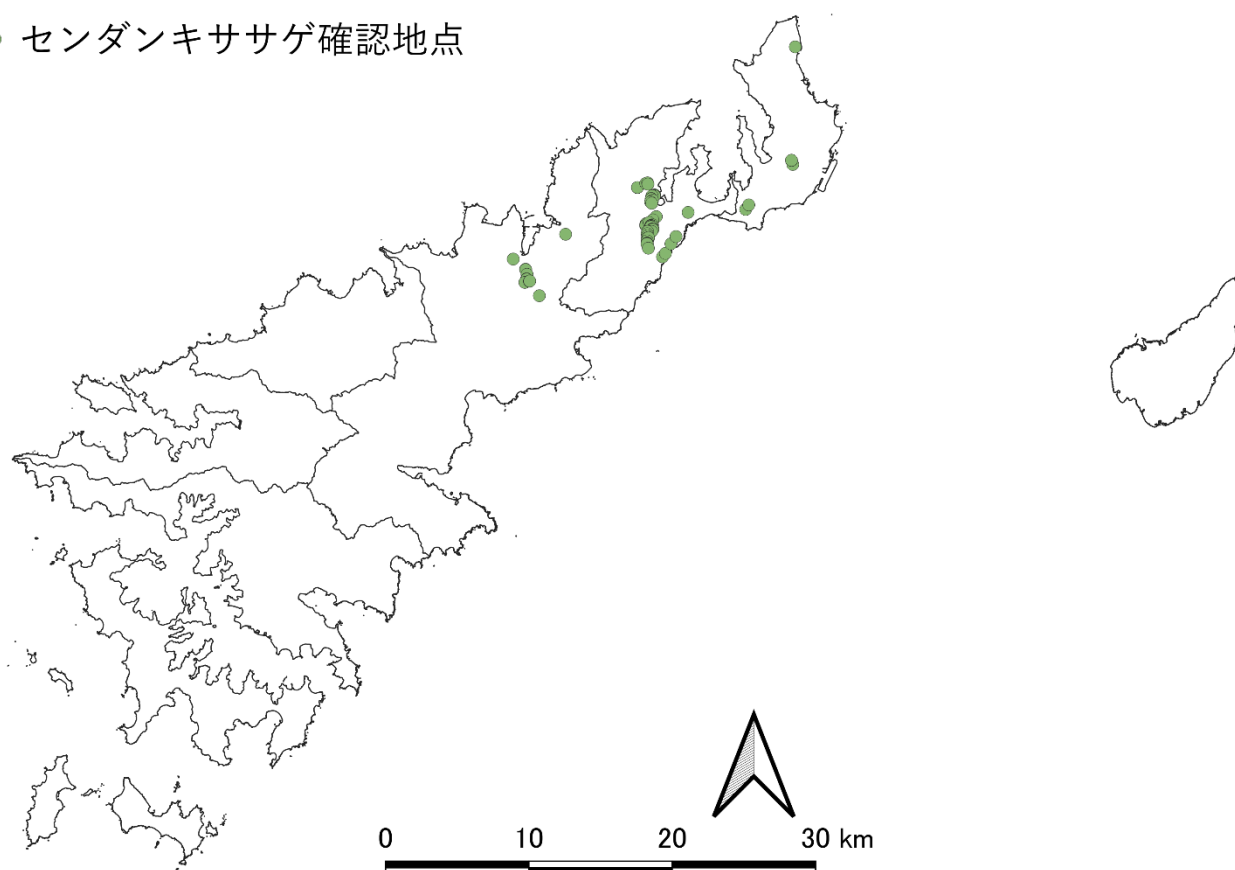




影響 : 高さ 10m 以上になることから周囲の景観を一変してしまうほか、在来植物との競合が懸念されている。

侵入状況 : 始めに侵入したとみられる龍郷町を中心に急激に分布を拡大している。笠利町や名瀬市街地で点々とみられる他、住用でも局所的に侵入が確認された。このまま放置するとギンネムやアカギの様に島中に蔓延することが危惧される。

● センダンキササゲ確認地点



対策状況 : 2023 年 11 月に数カ所で除草剤を用いた試験的な駆除作業を行った。より効果的な防除方法の検討が求められる。

防除のコツ：高木になると防除が困難になるため、できる限り小さい内に対応することが求められる。種子が小さく風によって飛ばされやすいため、種子が出来る前の時期に作業することが望ましい。引き抜きが出来る株は出来るだけ根から引き抜き、引き抜きが難しい場合、ノコギリ等で伐採し、切断面に除草剤を塗布するなどの方法が考えられる。

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

8

アカザカズラ

ツルムラサキ科 *Anredera cordifolia*

原産地：南アメリカ

特徴

つる性の多年生草本。オカワカメの名前でも知られる。観賞用のほか、食用にされることもある。

葉：多肉質でやや先のとがった卵形。

花：葉の根元から、長さ 15cm ほどの花穂を出し、直径 5mm ほどの緑白色の花を密につける。

繁殖：地中や地上に塊茎をつけるほか、茎の断片から生育するなど主に栄養繁殖によって増えている。地上部にできる塊茎は、つるが切った後でも数年間は発芽能力を持つとされている。種子をつけるのは非常にまれとされている。



影響：多肉質の葉で樹冠や地表を覆ってしまうことから、周囲の植物に日光が届かず、成長や発芽が妨げられるなどの影響がある。またつるが絡んだ樹木が本種の重さで折れてしまうことも報告されている。

侵入状況：奄美大島内では、まばらに数カ所で侵入が確認されている。観賞用や食用に栽培している人もいる可能性があることから、新たな逸出が生じないよう普及啓発等による情報の収集も求められる。

対策状況：未だ具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ：駆除の時期はあまり問わない。地上部のつるについている塊茎が、ぼろぼろ落ちやすいため、これらを優先的に除去する必要がある。その後、つるの根元をたどるように丁寧な抜き取り作業を行う。

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

9

コケセンボンギクモドキ

キク科 *Erigeron bellioides*

原産地：カリブ諸島

特徴

ロゼット状の多年生草本。1980年に初めて沖縄島で見つかり、現在同島ではごく普通に見られる。公園や林道など人為的な攪乱をされた裸地を好み、しばしば本種だけの群落を形成する。

葉：ロゼットの直径は4～6cmほど。根元から生える葉はしゃもじ型で先が丸い。

花：一年を通して開花する様子が見られる。3～10cmほどの花茎の先に直径6mmほどの小さな白い頭状花をつける。

繁殖：種子繁殖。種子は小さく、風や土砂の移動、車のタイヤ、人の靴の裏などで容易に拡散する。



影響：本種だけの群落を作ることから、似たような環境に生育する在来種と競合し、駆逐する可能性がある。

侵入状況：奄美大島では、瀬戸内町で初めて侵入が確認された。現在は、名瀬市街地でも点々と確認されており、分布が急激に拡大していると考えられる。

対策状況：未だ具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ：ほぼ周年開花しているため、時期を問わずできる限り早めに対応することが望ましい。できる限り丁寧に根まで取り除く。

B) 場所を限定して局所的な防除を進める種類

10

セイヨウミズユキノシタ

アカバナ科 *Ludwigia palustris*

原産地：アフリカ、ヨーロッパ、西アジア、アメリカ大陸が原産と考えられる。

特徴

水槽用の水草として流通する多年草。湖沼や水路などの水域から泥地や湿った林道などに生え、マット状に生育する。種子繁殖の他、千切れた断片からも生育する。

葉：葉は長さ 20mm～35mm、幅 10～20mm。水中か陸上かで葉の形態は大きく変化する。柄は短く、1カ所から2枚の葉が出る対生。

花：葉の根元に花を一つつける。花弁はなく、がくが4つに分かれる。

繁殖：奄美でも大量の種子が形成されているのが確認されているほか、千切れた断片による栄養繁殖によっても拡散している。



影響：マット状に生育し、在来植生と競合すると考えられる。特に渓流域の岩上に生育する希少種アマミスミレ（絶滅危惧 IA 類²⁾）、アマミカタバミ（絶滅危惧 IA 類²⁾）、ヒメサギゴケ（絶滅危惧 IB 類²⁾）などの生育環境を脅かすことが懸念されている。

侵入状況：奄美大島各地で侵入が確認されている。山域では、島を縦断する奄美中央線で侵入が見られる他、住用川などの主要河川でも侵入が確認されている。

対策状況：住用川流域における駆除作業を実施予定。

防除のコツ：夏に開花・結実するため、それ以前の駆除が望ましい。千切れた茎の断片からも生育するため、丁寧な除去作業が求められる。駆除後も取り残しや土中に残った種子から発芽する可能性があるため、2、3ヶ月毎など定期的な駆除作業が必要。

²⁾ 環境省レッドリスト(2020)

B) 場所を限定して局所的な防除を進める種類

11

オウゴンカズラ

サトイモ科 *Epipremnum aureum*

原産地：ソロモン諸島

鹿児島県条例：指定外来動植物

特徴

ポトスの名で知られるサトイモ科のつる植物。茎から付着根と呼ばれる根を伸ばして、樹木に張り付く。大きく成長すると長さ 70cm ほどの葉をつける。

葉：大きい株の葉は長さ 50～70cm、幅 20～40cm ほどになる。葉には淡い黄色の模様が不規則に入る。

花：ほとんど開花・結実した様子を見ることはない。

繁殖：地面を這った茎が根を張り、クローンで分布を拡大する。



影響：樹冠を覆ってしまうため、林床の植物等の生育環境を改変してしまうことが懸念される。また、大型で非常に目立つ種であることから、景観を一変してしまうことも影響の一つである。

侵入状況：ポトスの名で一般に流通している種であることから、庭等で栽培している人も多い。ただし、奄美大島の気候下では急激に成長してしまうため、手に負えなくなる他、伐採した茎を野外に捨てることで分布が拡大する。林道沿いの草捨て場などを中心に森林域でも侵入が確認されている。

対策状況：未だ具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ：種子繁殖はほとんどしないため、駆除の時期は問わない。茎の断片からも生育するため、丁寧な除去作業が求められる。

リンク：鹿児島県外来種駆除対応マニュアル ポトス(オウゴンカズラ)

https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_20190520155143-1.pdf

B) 場所を限定して局所的な防除を進める種類

12

コゴメミズ

イラクサ科 *Pilea microphylla*

原産地： 南アメリカ

生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種

特徴

小型の一年生～二年生草本。奄美大島や沖縄島中のコンクリートの隙間などで普通に目にする植物。通年見られる。

葉：大型と小型の2型があり、大きいもので長さ6mmほど。多汁質。

花：葉の根元に直径1mmほどの小さな花をつける。

繁殖：種子繁殖により分布を拡大していると考えられる。



影響：同じような環境に生育する在来種との競合が懸念される。

侵入状況：低地部から森林域の林道沿いなど奄美大島全体で侵入が確認されている。陰湿な環境でも生育することから、コアエリアの林内などへの侵入が懸念される。

対策状況：未だ具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ：根から丁寧に取り除く。付近の地面に種子が埋まっていることが考えられるため、定期的な駆除作業が求められる。

B) 場所を限定して局所的な防除を進める種類

13

トクサバモクマオウ

モクマオウ科 *Casuarina equisetifolia*

別名：トキワギョリュウ

原産地： オーストラリア

生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種

特徴

高さ 20m ほどに達する常緑高木。幹は直径 30～60cm になる。海岸の浸食防止、防風林、緑化樹として植えられることが多かった。

葉：葉のように見えるのは小枝で、若い小枝はトクサの様に節がある。

花：雌雄同株。枝先に薄紅色の雄花をつけ、雌花は枝の根元から出る柄の先につき、金平糖の様な形をしている。

繁殖：種子の生産量・発芽率が高い上に、菌と共生しやせ地でもよく育つ。

影響：成長が早く、種子繁殖が旺盛なことから、在来種と競合・駆逐し、本種の純林を形成する。耐塩性があるうえ、砂地でも生育するほか、窒素固定能力があり砂浜を森林化してしまうなどの影響がある。

侵入状況：奄美大島全島的に海岸部を中心に植えられている。

対策状況：笠利町での駆除実績はあるが、継続的な対策は実施できていない。

防除のコツ：大きくなると駆除が困難になるため、できる限り幼株のうちに駆除を実施したい。抜き取りが困難な株はノコギリ、チェーンソー等で伐採を行う。

B) 場所を限定して局所的な防除を進める種類

14

アメリカネナシカズラ

ヒルガオ科 *Cuscuta campestris*

原産地：北アメリカ

生態系被害防止外来種リスト：その他の総合対策外来種

特徴

つる性の一年生寄生植物。周囲の植物に巻き付きながら寄生し、栄養をもらう。葉緑素を持たず、葉は退化して全体に淡黄色をしている。

茎：全体に淡黄色をしており、ラーメンのような見た目。よく分岐し、周囲の植物に複雑に絡み合う。

花：直径 3mm ほどの白色の花をかためて密につける。

繁殖：種子繁殖、栄養繁殖ともに旺盛。花を密につけ、大量の種子を形成することから一度定着してしまうと土中にシードバンクが形成されてしまう。また千切れた茎の断片からも生育するために路傍の草刈り等で拡散してしまう恐れもある。



影響：周囲の植物に寄生して養分を得ることから、在来植生の衰退や農業被害が懸念される。また黄色の見た目は遠くからでもよく目立ち、本来の景観を大きく改変させてしまう。

侵入状況：奄美大島では低地部、海岸部を中心にまばらに侵入している。一部、山域の林道沿いでも侵入が確認されている。

対策状況：山域の林道沿いにおける生育地点で、駆除作業を実施している。

防除のコツ：夏の間中、開花・結実が確認されるが、できる限り種子がつく前に駆除作業を実施したい。周囲の植物を含めて丁寧な刈り取り作業を実施する必要がある。

リンク : 鹿児島県外来種駆除対応マニュアル アメリカネナシカズラ
https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_20231017091557-1.pdf

B) 場所を限定して局所的な防除を進める種類

15

アカギ

トウダイグサ科 *Bischofia javanica*

原産地：沖縄諸島、台湾、中国南部、東南アジア、ポリネシア、オーストラリア

生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種(国内由来)

特徴

成長が早い樹木で、成長すると高さ 15～25m に達する。全体に赤褐色をしていることから、アカギの名前に。街路樹、防風林として植えられていた。

葉：卵形で縁にギザギザ(鋸歯)のある小葉 3 枚で一枚の葉を構成する。

花：春に黄緑色の細かい花を大量に咲かせる。

繁殖：秋から冬にかけて、直径 1cm 程度の茶色の実を大量につける。



影響：在来植生との競合が懸念される他、成長の早い高木であることから景観を大きく改変させてしまう。

侵入状況：奄美大島中の市街地、集落周辺で侵入が確認されている。一部、山域でも公園等を中心に植栽等で侵入が確認されており、逸出・分布拡大が懸念される。

対策状況：具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ：大きくなると駆除が困難になるため、できる限り幼株のうちに駆除を実施したい。抜き取りが困難な株はノコギリ、チェーンソー等で伐採を行う。除草剤注入などの方法も考えられる。

C) 普及啓発等を通じて新たな拡散を防止する種類

16

ギンネム

マメ科 *Leucaena leucocephala*

原産地：熱帯アメリカ

生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種

特徴

日当たりの良い路傍に生育する成長の早い中高木。緑肥、土壌流出防止等の目的で植栽されている。

葉：小さな小葉を密につける2回羽状複葉。

花：白い球状の花を咲かせる。

繁殖：種子繁殖によって数を大きく増やす。マメの鞘の中に扁平な種子を作る。種子は硬い殻を持ち、シードバンクを形成する。



影響：在来種との競合、景観の改変などの影響がある。

侵入状況：奄美大島で全島的に侵入が見られる。

対策状況：未だ具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ：大きくなると駆除が困難になるため、出来る限り幼木のうちに駆除することが望ましい。抜き取りが難しい大きな株はノコギリで伐採し、断面に除草剤を塗布するなどの方法がある。

C) 普及啓発等を通じて新たな拡散を防止する種類

17

シチヘンゲ

クマツヅラ科 *Lantana camara*

原産地：熱帯アメリカ

生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種

IUCN 世界の侵略的外来種ワースト 100

特徴

園芸植物として世界中で侵入している低木。ランタナの名前でも知られ、花の色が変化していくのが、最大の特徴。

葉 : 卵形から心臓型。縁にはギザギザ(鋸歯)がある。茎の同じ箇所から 2 枚の葉が対になって生える(対生)。

繁殖 : 果実は野鳥やヤギ等に好まれるため、これらの動物によって分布を拡大している。また種子は野外で 10 年以上発芽能力持つという報告もある。栄養繁殖による繁殖も旺盛で、地下茎により横方向に広がり厚い藪を形成する。



影響 : 厚い藪を形成し、周囲の植物の成長や発芽を妨げるなど在来種との競合が懸念される。また果実は食中毒を引き起こす事例も知られ注意が必要。

侵入状況 : 市街地、集落の生け垣、花壇やそれらから逸出したと思われる群落が島中で見られる。

対策状況 : 未だ具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ : 果実が熟するまでの時期に防除するのが望ましい。地下茎からも再生育するため、丁寧に抜き取る作業が求められる。

C) 普及啓発等を通じて新たな拡散を防止する種類

18

ホテイアオイ

ミズアオイ科 *Eichhornia crassipes*

原産地：熱帯アメリカ

生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種

鹿児島県条例：指定外来動植物

IUCN 世界の侵略的外来種ワースト 100

特徴

水槽用の水草として普通に流通していた植物。葉柄の根元に浮きの役割を果たすふくらみがあるのが大きな特徴。成長が早く、短期間で大增殖してしまう。

葉 : 葉は丸形で毛はなく、光沢を持つ。葉柄の根元に膨らみがあり、これが浮きの役割をすることで水に浮いている。

花 : 葉の間から花茎を伸ばし、紫色の大きな花を総状に咲かせる。

繁殖 : 栄養繁殖が非常に旺盛。水平方向に伸びる茎の先に子株をつけ、水面を覆い尽くすように生育する。種子繁殖も確認されており、種子は数年間もの間、発芽能力を保つとされている。



影響 : 成長が早く、急激に大增殖し水面を覆い尽くしてしまう。水流、交通の妨げになるほか、水中へ日光が届かなくなり、他の水草や生物の住みにくい環境に改変してしまう。

侵入状況 : かつて一般に広く流通していたため、民家の庭先等でよく目にする。また用水路、ため池、

沼地などにも侵入が見られ、場所によっては水面が見えないほどに大繁殖している。

対策状況 : 駆除の実績がある箇所もあるが、体系的な防除作業は実施できていない。

防除のコツ : 時期はあまり問わない。取り残しがないように丁寧に除去作業を行う必要がある。取り残した株からの再生育が1、2ヶ月程度で視認しやすくなるため、1、2ヶ月間隔での定期的な駆除作業が望ましい。

リンク : 鹿児島県外来種駆除対応マニュアル ホテイアオイ
https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_20220616094004-1.pdf

C) 普及啓発等を通じて新たな拡散を防止する種類

19

アメリカハマグルマ

キク科 *Sphagneticola trilobata*

原産地：熱帯アメリカ

生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種

特徴

グラウンドカバーとして持ち込まれたキク科の多年生草本。黄色の花を周年開花させる。

- 葉：茎の同じ箇所から 2 枚の葉が対になって生える(対生)。成熟した株の葉は中央部に切れ込みが入り、鋸型になる。
- 花：ほぼ周年、黄色の花を咲かせる。多くのキク科植物で見られるように、小さな花が集まる頭状花序で直径は 4cm ほど。
- 繁殖：地面を這うように伸びる茎によって水平方向にどんどん広がってしまう。また千切れた茎の断片からも生育するため、草刈り作業等でも拡散してしまう可能性がある。



- 影響：自身の茎を複雑に絡み合わせながら密な群落を作るため、在来種と競合し、駆逐してしまうことが懸念される。

- 侵入状況：かつて島の至る所でグラウンドカバーとして導入されたため、島中で見ることが出来る。またこれらから拡散したと考えられる群落も低地部を中心に、一部山域でも見られる。

- 対策状況：一部の生育地で駆除実績があるが、未だ体系的な防除作業は実施できていない。

- 防除のコツ：ほぼ周年開花が見られることから、駆除の時期はあまり気にしなくてよい。千切れた茎の断片からも生育するため、取り残しがないように丁寧に抜き取りを行う必要がある。

- リンク：鹿児島県外来種駆除対応マニュアル アメリカハマグルマ
https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_20231017091951-1.pdf

C) 普及啓発等を通じて新たな拡散を防止する種類

20

セイトカアワダチソウ

キク科 *Solidago altissima*

原産地：北アメリカ

生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種

特徴

キク科の多年生草本で、1～2.5m ほどに成長する。秋に黄色の花を咲かせる。種子繁殖の他、地下茎による栄養繁殖によっても増える。

葉：葉は長さ 5～15cm、幅 1～2.5cm で、同じ場所から 1 枚ずつの葉が出る互生。形は披針形で表面はざらつく。

根：地下茎と呼ばれる横向きに伸びる茎が地下にある。

繁殖：種子繁殖のほか、地下茎からクローンでも繁殖する。



影響：密集して生育し、セイトカアワダチソウの純群落を作ることから景観を大きく改変してしまうほか、在来種の生育環境を奪ってしまう。また周囲の植物の成長を阻害する物質を分泌することが知られている(アレロパシー)。

侵入状況：奄美大島全体で日当たりの良い路傍、草原などに侵入が見られる。

対策状況：環境教育や地域イベント等で局所的な駆除作業が実施されている。

防除のコツ：種子が出来る時期(11 月頃)以前に駆除作業を行うのが望ましい。地下茎から増えるため、根

から丁寧に抜き取りを行う必要がある。

リンク : 鹿児島県外来種駆除対応マニュアル セイタカアワダチソウ

https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_20190520154740-1.pdf

C) 普及啓発等を通じて新たな拡散を防止する種類

21

外来ユリ(タカサゴユリ、シンテッポウユリ)

ユリ科 *Lilium formosanum* ほか

原産地：タカサゴユリは台湾

生態系被害防止外来種リスト：その他の総合対策外来種

特徴

タカサゴユリは台湾原産。在来種テッポウユリとタカサゴユリの園芸交雑種がシンテッポウユリ。いずれも自家和合性をもつため1株からでも増殖するほか、発芽から開花・結実まで1年以内と成長が早い。

葉：いずれも葉は細長い。幅4～13mmで長さは15cmほどになる。

花：テッポウユリによく似た花を咲かせる。タカサゴユリは花の基部と花筒の表面に紅色の筋が入ることがある。シンテッポウユリではこの筋が入らないか、非常に薄い。

繁殖：自家和合性を持つため、自身の花粉で受粉・結実する。また発芽から開花・結実まで一年かからないとされている。ユリ根がバラバラになると、それら一つずつからも発芽するため注意が必要。



影響：在来種との競合が懸念されるほか、テッポウユリやウケユリなどの在来種との雑種が形成されるなど遺伝子汚染が懸念される。

侵入状況：市街地、集落周辺を中心に低地部で侵入が見られるが、一部山域でも侵入が確認されている。

対策状況：山域の生育地点では継続的な防除作業を実施している。

防除のコツ：花期前後以外は地上部がないため、発見しづらい。花期(7月頃)に地下のユリ根まで丁寧に掘り出す必要がある。

C) 普及啓発等を通じて新たな拡散を防止する種類

22

ムラサキカッコウアザミ

キク科 *Ageratum houstonianum*

原産地：熱帯アメリカ

生態系被害防止外来種リスト：その他の総合対策外来種

特徴

キク科の一年生草本。

- 葉 : 円形から卵形の葉で両面に毛が生える。茎の株では同じ箇所から 2 枚の葉が対になって生える(対生)。
- 花 : 茎の先に紫色、ときに白色の頭状花序を咲かせる。暖地だと開花はほぼ周年見られる。
- 繁殖 : 種子繁殖によって分布を拡大する。大量の小さな種子をつけ、風や水流、動物、人間の服、車などによって容易に拡散する。また草刈り等によって千切れた断片からも栄養繁殖を行う。



- 影響 : 在来種と競合し、在来植生が衰退してしまうことが懸念されている。周囲の植物の発芽、成長を阻害する物質を分泌することも知られる(アレロパシー)。

侵入状況 : 低地部から山城の林道沿いなど奄美大島中の至る所で侵入が確認できる。

対策状況 : 駆除実績のある生育地点もあるが、体系的な防除作業が実施できていない。

防除のコツ : ほぼ周年開花するため、駆除の時期は問わない。種子がついている場合は、地面に落ちないように優先的に除去する。根から丁寧に抜き取るのが望ましい。

リンク : 鹿児島県外来種駆除対応マニュアル ムラサキカッコウアザミ
[https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-](https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_20190520155207-1.pdf)
[kankyo/gairai/documents/72338_20190520155207-1.pdf](https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_20190520155207-1.pdf)

C) 普及啓発等を通じて新たな拡散を防止する種類

23

メリケントキンソウ

キク科 *Soliva sessilis*

原産地：南アメリカ

鹿児島県条例：指定外来動植物

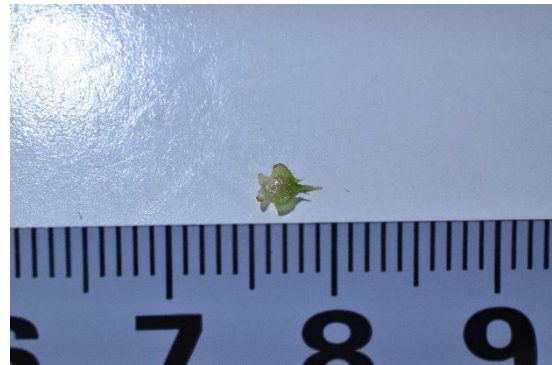
特徴

キク科の越年生草本。茎は地に接し、高さは5cm程度。駐車場やグラウンドなどに侵入している様子がよく見られる。最大の特徴である果実のトゲは、刺さると血が出るほど痛い。

葉：葉は羽状に切れ込みが入る。

花：春に花を咲かせる。直径7～10mm程度の小さな花を葉の根元あたりにつけるため、あまり目立たない。果実はカブトガニを思わせるような形でトゲがある。

繁殖：種子繁殖。果実にあるトゲが動物の毛に絡まるほか、靴底、車のタイヤに刺さるなどして分布を広げる。



影響：果実のトゲによる人体への被害が懸念される。またしばしば密な群落に発達することから、同じような環境を好む在来種と競合することもあると考えられる。

侵入状況：奄美大島各地のグラウンド、駐車場、草原などで侵入が確認されている。

対策状況：未だ具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ：種子がつく前の防除作業が安全で効率も良い。また場所によっては除草剤の使用も効率的。草刈り機での防除は茎の断片や種子を拡散するため不向き。

リンク：鹿児島県 メリケントキンソウ撲滅対策マニュアル
https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/40664_20200604220235-1.pdf

C) 普及啓発等を通じて新たな拡散を防止する種類

24

ベゴニア

シュウカイドウ科 *Begonia* spp.

原産地：中国など

特徴

園芸植物として流通している多年生草本。シュウカイドウ科シュウカイドウ属に属する植物の総称。日本では、シュウカイドウ(*B. grandis*)などがよく見られる。

葉：ハート型でざらつきのある葉を持つ。

花：ピンクや赤の花を咲かせる。

繁殖：シュウカイドウ(*B. grandis*)は葉の根元に無性芽をつけ、栄養繁殖を行う。また茎の断片からも生育していると考えられる。



影響：在来種との競合が懸念されている。

侵入状況：市街地周辺や山城の林道沿いの湿った箇所を中心に侵入が見られる。山城の林道沿いでは徐々に分布が拡大している様子が確認されている。

対策状況 : 未だ具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ : 地下に塊茎をもつため、地上部だけでなく地下部まで丁寧に掘り下げる必要がある。

D) 情報収集に努める種類

25

ハイクサネム

マメ科 *Desmanthus illinoensis*

原産地：北アメリカ

特徴

高さ 1m ほどに達する多年生草本。沖縄島では蔓延し、普通に見られる。局所的に群落を形成する。

葉：ギンネムの葉によく似るが全体的に小振りで密。小葉の長さは 3～4mm 程度。2 回羽状複葉。

花：白色の頭状花序で直径 1cm のパフ状になる。

繁殖：種子繁殖

影響：在来種との競合が懸念されている。

侵入状況：名瀬市街地や大和村の公園など日当たりの良い草原で侵入が確認されているが、島全体での侵入状況は把握できていない。

防除のコツ：開花・結実前に駆除作業を行うのが望ましい。根から丁寧に抜き取る必要がある。

D) 情報収集に努める種類

26

デリス

マメ科 *Derris elliptica*

原産地：東南アジア

特徴

大型のつる性木本。根を殺虫剤や魚毒に利用するほか、つるを編んでかご等をつくるため、各地で植えられた。

葉：4～6対の小葉で1枚の葉を構成する。小葉は長楕円形～へら形で褐色の毛が生える。小葉の長さは10～25cm程度。

花：初夏にマメ科らしい形で桃色の花がまとまって咲く。

繁殖：種子繁殖によって増えるほか、茎の断片から成長する栄養繁殖も行う。



影響：林縁の樹木によじ登るようにして生育することから、在来種の被覆による在来植生の衰退が懸念される。

侵入状況：集落周辺を中心に侵入が確認されている。

防除のコツ：茎の断片からも生育するため、根から丁寧に除去する必要がある。